「できない」から始まる恵みの世界（イエスに出会った人②）

マルコの福音書１０章１７～３１節

この箇所は、わかり難いと思いました。理解し難いというよりも、イエス様の言われることを受けとめにくく感じたのです。私としては、むしろ、この人や弟子たちの気持ちの方に親しみを感じました。

でも、イエス様の姿に気づきました。「彼を見つめ、いつくしんで」。「彼らをじっと見て」。このイエス様の眼差しに、「伝わってほしい」という思いを感じます。それは「恵み」ということについてです。

① 「何をしたら」から始まるのではなく

“イエスが道に出て行かれると、一人の人が駆け寄り、御前にひざまずいて尋ねた。「良い先生。永遠のいのちを受け継ぐためには、何をしたらよいでしょうか。」” 17

“イエスはそれを見て、憤って弟子たちに言われた。「子どもたちを、わたしのところに来させなさい。邪魔してはいけません。神の国はこのような者たちのものなのです。まことに、あなたがたに言います。子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに入ることはできません。」” 14-15

② 「何をしたら」で生きるなら、失望で終わる

“その人はイエスに言った。「先生。私は少年のころから、それらすべてを守ってきました。」イエスは彼を見つめ、いつくしんで言われた。「あなたに欠けていることが一つあります…。」すると彼は、このことばに顔を曇らせ、悲しみながら立ち去った。多くの財産を持っていたからである。” 20-

③ 「できない」を認めることから。できないから、神が必要

“弟子たちは、ますます驚いて互いに言った。「それでは、だれが救われることができるでしょう。」イエスは彼らをじっと見て言われた。「それは人にはできないことです。しかし、神は違います。神にはどんなことでもできるのです。」” 24-

“しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます。” ﾛｰﾏ 5:8

【話し合ってみましょう】

＊「恵み」ということは、私たちの世界の通常の考え方とは異なることです。あなたは「恵み」ということをどう思いますか。どのような経験を通してわかるようになりましたか。